

五輪の情熱と興奮 世界へ



▶選手村から半径8km圏内

- 1 五輪スタジアム 開閉会式、陸上、サッカー、ラグビー
- 2 東京体育館 卓球
- 3 国立代々木競技場 ハンドボール
- 4 日本武道館 柔道
- 5 皇居外苑 自転車(ロードのスタート)
- 6 東京国際フォーラム 重量挙げ
- 7 国技館 ボクシング
- 8 有明アリーナ パレーポール
- 9 有明BMXコース 自転車(BMX)
- 10 有明ベロドローム 自転車(トラック)
- 11 有明体操競技場 体操
- 12 有明テニスの森 テニス
- 13 お台場海浜公園 トライアスロン、オープンウォーター
- 14 潮風公園 ビーチバレー

東京都の2020年夏季五輪 開催計画の主な会場と競技



▶選手村から半径8km圏外

- 29 武蔵野の森総合スポーツ施設 近代5種(フェンシング)
- 30 東京スタジアム サッカー、近代5種(水泳、馬術、射撃、ランニング)
- 31 武蔵野の森公園 自転車(ロードのゴール)
- 32 陸上自衛隊朝霞訓練場 射撃
- 33 霞ヶ関カントリー倶楽部 ゴルフ
- 34 札幌ドーム サッカー
- 35 宮城スタジアム サッカー
- 36 埼玉スタジアム2002 サッカー
- 37 横浜国際総合競技場 サッカー



夢を持つ子供 増えれば

自身も小さい時は明確な夢を持てずに悩んだ。「ゲーテ屋にならなさい、とかそういうのはあったけど、いつも口をコロコロ変わっていて、いつか私は路頭に迷っちゃうんじゃないかって思った。



松本 薫 ロンドン五輪柔道女子57kg級金メダル

2020年まで現役でいられるかは分からないが、「東京五輪で、アスリートの夢を日本のみならず共有出来れば、本当にすごいと思います」。7年後に思いをこめて、黒目をきらきらと輝かせていた。(野村周平)

ホームの声援力になる

「東京五輪で金メダルを取りたい」。18歳の女子ラグビー選手日向寺亜依は、真っ黒に日焼けした顔で宣言した。16年11月にオーストラリアで採用される7人制ラグビーで、夢舞台を見据える。競技歴はまだ1年だ。北海道・遠軽高1年の時、2歳上の兄が同高校ラグビー部で全国高校大会に出場。けがを抱えながら奮闘したが、敗退した。スタンドにいた日向寺も悔しかった。「ラグビーで敵をぶっ倒したいと思った」。3年生までパレーポールを続け、引



日向寺 亜依 女子ラグビー

退した2日後、強豪のラグビー部に転じた。高校の先生からは「五輪を目指せ」とはばをかけた。ただ一人の女子選手。男子からタックルを受け、容赦なく地面にたたきつけられた。でも、弱音は吐かなかった。「練習の質が落ちるのに、女子の自分を鍛えてくれる。痛がったらだめだと思っただけ」。昨年12月には7人制の試合で聖地・花園のピッチに立った。今春、横浜市の実業団チーム戸塚共立にスカウトされ入団。午前中は病院で事務をこなし、午後は練習に明け暮れる。寮では男子の試合を研究する。7年後は25歳。選手として脂肪の多い年代だ。「ホームの声援は力になる。東京でトライを決めて、金メダルを見せたい。そして、女子ラグビーを広めたい」。(広部憲太郎)

全部をかける気持ちで戦う

桐生 祥秀 陸上男子100m

母国での五輪開催という事実、17歳にして、想像の範囲を超えるらしい。「東京にこころはうれいけど、五輪に出たことないの……」。ただ、自分に力を与えてくれる大会になることは分かる。「世界中から人が集まって、日本人からもたくさんの応援がもらえる。それは僕にとってプラス」。五輪を初めて見たのは、陸上を始めて1年目の時。2008年北京五輪の陸上男子400mリレーで日本が初の銅メダルを獲得する瞬間を自宅のテレビで観戦した。「その時は、ただ日本が速いな、ジャマイカがすごいなという程度。まさか自分が世界で戦う選手になるとは。それが今や、今年の世界選手権代表になり、400mリレーで6位入賞を果たした」。

日の丸をつけたからこそ、五輪の素晴らしさも厳しさも理解できる。「五輪は最高峰の大会で、世界中の選手がそこにかけてくる。自分も全部をかける気持ちで戦わないとダメ」。20年は24歳。体力的にはピークだ。世界の舞台を知る高校3年生はこう言った。「勝負するのは東京。世界で戦える強さを持って、その舞台に立っていると」。(小田邦彦)



生で見てもらい競技普及

浦田 理恵 ロンドン・パラリンピック ゴールボール金メダル

昨年ロンドン大会、障害者スポーツ発祥の地の人たちは温かかった。「競技場の外でも盛り上げてくれた」。日本でも理解が進むが、練習場所の確保一つにも苦しむ現状がある。「関心の高まりとともに、選手を取り巻く環境整備も進んでほしい」と願う。7年後。「お世話になった人への恩返しを、アスリートとして結果で示したい」。ただ、自分がコートに立てるかは分からない。36歳。後進の指導と競技人口の拡大も役割の一つと自覚する。「金メダルで注目度は上がった。やっぱり結果って大事。3年後のリオデジャネイロ大会でも優勝し、東京につなげたい」と力を込めた。(幸子智恵)

